

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」.....

# たまちゃん通信

令和元年 5 月発行 111-2

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail：honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

## 「おはなしお婆さん」のお手玉

### お手玉一つあればいろんな遊びが

「おはなしお婆さん」として知られる幼児教育家の藤田浩子先生は、著書「あそべやまんば」(むかしあそびの会)で、お手玉遊びを次のように紹介しています。



「お手玉遊びを通して、ワザを磨き、みんなと楽しむということをお伝えしたいと思いました。もちろん昔からの遊びで、



ワザの必要な遊びはお手玉ではありません。中でも『歌いながら、体を動かして、みんなと一緒に』に遊ぶものは、8本の竹で遊ぶ竹返しや、まりつきや、紙ふうせんもそうですし、おはじき、羽根突き、縄跳び、ゴム跳び、拳玉...

数え上げればきりがありません。

その中から、お手玉遊びを是非伝えたいと思ったのは、私が一番たくさん遊んできた遊びということもありますが、それだけではありません。

お手玉一つあれば、簡単な遊びから複雑な遊びまでいろいろな遊びができます。また、それほど広くない場所でも遊べますし、赤ちゃんとも遊べるのです。その上、針が持てるようになれば、自分で作る喜びも味わえます」(写真右上：手ぶりを交えて話す藤田先生)



中身を少なくすれば『赤ちゃんの遊び』に

「お手玉というと、2つも3つものお手玉を、手際よく投げて取り、取っては投げ上げたり(このワザを「ゆり型」と言うそうです)、親玉を投げ上げながら4つや5つの子玉を拾ったりつかんだり(これを「拾い型」と言うそうです)する、あの難しいワザを思い描く方が多いのですが、それだけがお手玉ではありません。

赤ちゃんでも幼い子でも遊べるやさしい遊びがありますし、リズムに合わせて、みんなでお手玉を回していく遊びもあります。

幼いうちからお手玉のあの感触を楽しんでもらうために、たった1つのお手玉で遊ぶ、そんな遊びから紹介します。

お手玉は中身をたくさん入れなければ赤ちゃんにも使いやすいし、落としても転がることなく、跳ね返ってとんでいくこともなく、扱いやすいおもちゃだと思います」(写真：左上・右下：藤田浩子先生の著書)

このように、お手玉の楽しさ、すばらしさを紹介していただいています。